



# YouTubeでどんどん配信しよう

—労働組合の知的財産を共有しないなんてもったいない—

生協労連書記次長 まかべ 真壁 たかし 隆



## 動画を撮影して 配信しよう

戦争法案反対運動を前後して、行動の現場に足を運ぶことが多くなり、「せっかくの行動や学べる話が、現地に来られる人だけにしか伝わらないのはもったいない」と思い、動画撮影と動画共有サイト「YouTube」での配信をおこなうようになりました。

生協労連の最近の経験では、企画前日に予定した講師がキャンセルになったことがありました。YouTube からその講師の数日前の講演動画を見つけて、その動画の要旨を起こして配布し、上映することで、予定通り企画を実施することができました。参加者からは大変好評でした。また、コスタリカの経験を話す伊藤千尋いとうちひろさんの講演が好評で、録画を抜粋して約25分にしたものを上映しましたが、こちらでも大変好評でした。

労働組合では、全国各地で大変素晴らしい講演やデモが実施されています。映像になれば、活動に直接関われない人たちにも伝えることができます。最近でも、憲法共同センターの学習交流集会の五十嵐仁いがらしじんさんの講演動画が、一週間で1.3万回以上再生されました。行動参加者の一人が、旗やプラカードを持つかわりにビデオカメラを持てば撮影できますから、動画とYouTubeでの配信

を広げられたらと思います。



## YouTubeからの広がり

私のYouTubeチャンネルは、「個人」のものですが、労働組合の動画を数多く配信しています。2018年12月1日現在は約3600人に登録され（全労連チャンネルの登録者は208人）、開始後の約3年間で、のべ243万回、26万8188時間視聴されています。1時間の講演を27万人に届けられたと思うと、それなりの規模になると思います。これまでの経験からいくつか実例を紹介します。

### 「真実は沈まない」（진실은 침몰하지 않는다）

この動画は、韓国でセウォル号の事件をきっかけに作られ、キャンドル革命でも歌われた歌の日本語バージョンです。2018年4月12日の国会前行動で演奏された動画が、韓国の人たちを中心に約6.2万回再生されました。同時に344件のコメントも寄せられ、日本と韓国の連帯を深めることができました。パク・クネ前大統領を引き下ろした運動は、日本の戦争法案反対運動の動画にも刺激を受けて広がりました。そこに続く動画になったことは大変うれしいです。

### テレビ報道や著名人等による活用



筆者の YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/c/MakabeTakashi>

エキタス  
AEQUITAS のデモ行進の映像が、テレビ番組  
いけがみあきら  
「池上彰のニュース大辞典」で紹介されました。  
また、AEQUITAS の藤川里恵さんのスピーチの  
あまみやかりん  
動画は雨宮処凛さんの講演で繰り返し上映されま  
した。その他にも、新聞記者の文字起こしに使  
われるなど、海外のジャーナリスト含め、問い合  
わせや活用が広がっています。

## メリットと大事にしていること

YouTube の主な特徴は次の通りです。第一に、視聴時間が長いことです。わたしが管理しているアカウントでは、YouTube の平均視聴時間は約 8 分ですが、フェイスブックは約 20 秒です。動画の内容を伝えるという点で、YouTube は長けています。第二に、動画へのアクセスが容易で、学習資料のアーカイブになります。第三に、世界共通の映像インフラとなっており、全世界に視聴者を広げることができます。第四に、高画質・高音質・長時間の動画に対応していることです。第五に、安定したライブ配信ができることです。スマートフォンがあれば、通信回線に依存しますが高画質のライブ配信ができます。第六に、文字起こし(字幕作成)が自動でできることです。1 時間の動画でも、約 1 時間半で生成されます。発声と録音が明瞭な国会審議などでは、8 割は正確に文字起こしされます。録音データの文字起こしに使える便利ツールです。

動画で大事にしていることは第一に、「編集より速報性」です。SNS 全般に言えることですが、スピードが命です。アップロードの 10 分の遅れ

で視聴回数が変わります。その点で「ライブ配信」は優れています。「編集して短くしないと見てもらえない」ということはありません。アナリティクス (SNS の解析機能) では、むしろ短く編集したほうが、視聴回数・時間ともに減少します。第二に、印象に残ったスピーチなどは切り出していることです。視聴者には撮影者が選択した場面で構成するダイジェスト版は好まれません。部分的な切り出しは歓迎されます。印象に残ったスピーチなどは、分かりやすいタイトルをつけて、その部分だけアップロードしています。第三に、最近理解したことですが、多くの場合、「音声が大重要」ということです。専用のマイクを用意したり、IC レコーダーで有線録音して映像と合成したりしています。

社会の発達・成熟とともに、これまでにないほど「個人の尊厳」に注目が集まっています。私たちもめざす個人の自由が開花する次の社会は、すでに胎動を始めています。

SNS は手段ではなく、多くの人たちが行き交う「社会」そのものです。SNS での市民運動の広がりや、私たちのこれまでの運動の成果でもあります。近現代社会で労働組合は重要な役割を果たしてきましたが、時代の変化を敏感にとらえて、新しいフィールドで運動を広げていくことが大事だと思います。

ツイッター  
Twitter は、アカウントを作って有名な人や団体をフォローするだけで、情報や運動のスピードに触れることができます。撮影機材と Google アカウントがあれば、いつでも YouTube での動画配信を始めることができます。個人でも組織でも、SNS への関わりを広げていただければと思います。